



Doctor
原田 雅仁氏

長沼整形外科・リハビリテーション科の理事
長・院長。日本整形外科学会認定であり、
脊椎疾患を専門とする。

一人でカバーするのは、やはり限界があります。かつて勤務していた病院で、もう少し早く来院してくれていれば…という思いを何度もしました。逆の見方をすれば、私たちのような「かかりつけ医」は、患者さまを第一に考え正しい診断をしたうえで、適切なタイミングで高次医療機関への転院を勧めるべきと考えています。万一のときに高次医療機関のような対応はできない。無理すぎないことも、患者さまを守るためには大切な経験ですね。

有床診療所なのでベッドは19床と少なく、すべての手術に対応できておりませんが腰椎や膝関節を中心に手術を行っております。そのため診断に欠かせないMRI装置は妥協せずに1.5テスラと磁力の強い高性能な装置を導入しております。また、手術の際に麻酔を使用できる身体かどうかを、手術前検査で「長沼内科」に評価していただいています。



「長沼整形」の手術室。総合病院に劣らない規模と設備を誇る。膝関節関節鏡下手術、脊椎除圧・ヘルニア摘出術など、2019年の手術数は179件

阪本ドクター 整形外科の手術前検査で内科系疾患が見つかり、そのまま診療を続けることもあります。反対に「長沼整形」で、うちの患者さまの外科的な処置をしていただくなど何かと交流があります。原田ドクター うちでもレントゲンやMRIの画像で気になる点があったときは、「長沼内科」での

のどかな田園風景のなかにある「メディカルタウンながめま」。二つのクリニックと調剤薬局から成る医療モールです。開業以来、長沼町と周辺エリアの人たちを癒やしてきました。地域のための医療とは何か、二人の医師の思いを伺います。

地域医療を支える メディカルタウンながめまの 果たす役割とは



のどかな田園風景のなかにある「メディカルタウンながめま」。原田ドクターは、地域の「憩いの場」として活用してほしいと思う。

「メディカルタウンながめま」の開院から何年が経ちましたか？
阪本ドクター 「長沼内科消化器科（以下、長沼内科）」の開院は2003年なので、18年目になります。私が着任したのは2008年です。
原田ドクター 「長沼整形外科・リハビリテーション科（以下、長沼整形）」は2007年に開院しました。2021年は15年目を迎えます。
——開院当時と現在で変化したことはありますか？
原田ドクター 開院したばかりの頃は、夕張市・南幌町・由仁町・栗山町など周辺地域からの患者さまが多かったです。徐々に長沼町内の皆さまの利用が増えました。

いまは若見沢市からの通院も多いですね。
阪本ドクター 送迎サービスがあるので、周辺の市町村からも通いやすいようです。変化といえば、「長沼内科」は基本方針を転換しました。開院当時の方針は都市部のクリニックと同様、質の高い消化器内科としての診断と治療でした。私が赴任してきたときは、より専門性の高い診療を積極的に行うことが、休診日であっても救急の患者さまを受け入れていました。いまは、医療機能の分担を大切にしています。「かかりつけ医」に徹して、必要と判断したら高次医療機関に依頼する方針にしました。
——方針転換のきっかけは？
阪本ドクター そもそも私は「餅

は餅屋」という考えで、（長沼内科の）笹島理事長も同じ考えだったからです。近年は医療の細分化、専門分化がますます進んでいます。だから、専門医に任せるときは任せたいほうがいい。消化器内科においても同様で、その全てを



Doctor
阪本 真司氏

長沼内科消化器科の院長。
日本消化器病学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医の資格を持つ



精密検査を勧めています。
——その連携は、「かかりつけ医」の真骨頂ですね。
原田ドクター 総合病院で勤務していたときから、地域の皆さまに親しまれる町医者を目指していました。「医者」と患者」というよりは「人と人」という関係性を築きたいと考えていたのです。

「今日はどのような症状があつて来院されましたか？」から始まる堅苦しいやりとりではなく、もっと

吹き抜けの開放的で明るい待合ホール。入って左側が「長沼内科」、右側が「長沼整形」、さらに入口の側に調剤薬局がある。この建物内の移動だけで診療が完結する



「長沼内科」の内視鏡検査。胃カメラ・大腸カメラによって各種検査治療に対応する。

気軽な「最近どう?」「元気?」から始まる会話の方が患者さまは相談しやすいのではないだろうか。
阪本ドクター 患者さまとの信頼関係は大事ですね。それがないと、高次医療機関へとつなぐことは難しいでしょう。
 私は、「長沼内科」をハブ空港ならぬハブクリニックにしたい。



「長沼内科」のCT室。正確な診断には欠かせないCTは、64列128スライス・マルチスライスCTを備える。同じフロアには内視鏡検査室、X線室も。入院施設があり、人間ドック・健康診断も受けられる。



「長沼整形」のMRIも、連携し共用させていただいております。
 また、可能なら診療科目を増やしたいと考えています。いまは、循環器内科・神経内科の医師に非常勤で来てもらっています。あとは、日々勉強ですね。医療の世界は目まぐるしく進化していて、診療ガイドラインも常に更新されています。昔の常識はいまの非常識ということもあります。とにかく学び続けなければなりません。
原田ドクター まさに同感です。私も、学会で新しい知識や技術を吸収しています。

腰や膝の痛みを抱えている患者さまのために、無料送迎車を運行しています。通院へのご苦労を少しでも軽減できるかと思っています。

地域の医療拠点として、患者さまに必要な医療機関へと中継する、つまり、しっかりと診察して、最も適した医療機関へと患者さまを振り分けるわけです。それが、私たちの役割だと考えています。
—そのための取り組みを教えてください—
阪本ドクター ハブクリニックとして機能するためには、正しい診察が欠かせません。そのため、さまざまな検査を行い早期に診断結果が得られる環境をつくるべく64列CTなど最新の医療機器をそろえるようにしています。そして、「長沼整形」のMRIも、連携し共用させていただいております。

す。(整形外科疾患を抱える)患者さまは、痛みが他者になかなか理解してもらえず、ふさぎ込んでいる方も少なくありません。原因を突き止めるためには、正確な診断のできる医療機器は欠かせません。実は、町内と周辺エリアには重症の患者さまが多い。農業従事者が多く、体を酷使していることが一因と考えられます。もし痛みを我慢している方がいたら、まずは気軽に立ち寄ってほしいですね。

阪本ドクター 発熱で新型コロナウイルスの感染を心配する患者さまも受け入れています。体の不調や気がかりを抱え込まずに、まずは私たちに相談してください。



フィリップス社製1.5テスラMRIを完備。精度の高い画像データが提供され、診断精度が向上。撮像時間の高速化も図られ、診断時にかかるストレスを軽減する。検査室内は温かな配色がなされ、安心して検査される雰囲気をつくっている。

近隣の町からの交通アクセスが抜群

新千歳空港・JR新札幌駅から車で約30分。国道337号沿いに位置するため、周辺の市町村からも通院しやすい。そのアクセスのよさもあり、南空知エリアの医療拠点として貢献している。また、送迎サービスは、公共交通機関の少ない町内でも好評である



メディカルタウンながぬま 長沼町西町1丁目8-16



長沼内科消化器科

電話: 0123・82・5333

診療科目: 内科・消化器科・循環器科

診療時間: 8:30~11:30、13:30~17:00 ※土曜は午前のみ

休診日: 土曜の午後・日曜・祝日



長沼整形外科・リハビリテーション科

電話: 0123・82・1233

診療科目: 整形外科・リハビリテーション科

診療時間: 8:45~11:30、14:00~17:00 ※第2・4土曜は午前のみ

休診日: 第1・3・5土曜・日曜・祝日